

金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの 原文対訳及び解釈

金田一京助宛ノート散文説話

「カワウソが私に化けるウェペケレ (esaman i=sinere uepeker)」

(後半)

藤田護

キーワード：アイヌ語、金成マツ、口承文学、散文説話

1. はじめに——資料とその特徴

本稿では、藤田（2022、2021、2018）に引き続き、金成マツが筆録した口承文学のうちで、散文説話を翻刻し、現代表記とともに日本語訳を付して公刊する。今回は藤田（2021b）に引き続き金田一京助宛筆録ノートのなかの散文説話の一つ、「カワウソが私に化ける物語 (esaman i=sinere uepeker)」の後半をとりあげる。資料の説明については、この藤田（2021b）の1. も参照ありたい。

金成マツ氏の筆録する散文説話はかなり長いことが殆どであるので、あまり本誌の紙幅をとらないように、以下では幾つかこの物語の分析の可能性を指摘するにとどめたい。

まず、この物語の構成として、たいへん多くのことが起きている、相当に複雑な物語だと言うことができそうである。根幹にあるのは、主人公が自身の許嫁をめぐる争いに勝つという通過儀礼の物語である。しかし、そこには、以下のような「物語タイプ」とでも呼べるものが織り合わされている——

- (1) 動物が人間に変身して求婚し、失敗するという人間と動物婚姻譚
- (2) 競争相手のカワウソが海の守り神（アトゥイコロカムイ）の使いであるという、カムイ間の主従関係
- (3) 両親の代わりにカムイ（家の守り神チセコロカムイ）が「おじいさん」となって主人公を育てており、そのことに主人公が気づきカムイが元に戻っていく、というトパットゥミ譚の典型的な形態
- (4) しかし、トパットゥミに遭った主人公の両親がこれを撃退しながらもカムイたちに息子を頼んでカムイモシリに行ってしまうという、トパットゥミ譚でもやや異例と思われる展開
- (5) クマとシャチの親友関係と、互いの妹を互いに婚姻させるカムイ間の婚姻、そしてそのために山と海から互いに向かってやって来て主人公の家の上で行き会うという、川上と川下のカム

イの邂逅で重要な情報がもたらされるパターンの変形とでも言えるような形態

(6) 人間を排したカムイ間の宴会が、しかしカムイモシリではなく主人公の家で催される

(7) 主人公と許嫁との婚姻によってオタスツとモイサムの二つの村(コタン)の親交関係が強化されるという村と村の首長間の親族関係と同盟関係の強化

物語がこのような複雑な構成をもつ結果として、カムイたちから主人公に真相が明かされる夢見が三回も繰り返されるという、これまた複雑な過程が繰り返される。すなわち主人公が夢を見た後でまたすぐに眠くなるというのが繰り返され、最初で主人公のおじいさんとなっていたチセコロカムイが全体状況を説明し、次の夢でクマのカムイ(キムンカムイ)とシャチのカムイ(レブンカムイ)が残っていた食料や宝物の処遇について、それぞれの妹二人の意向も伝達するかたちで説明し、さらにその次の夢で海を守るカムイ(アトゥイコロカムイ)がその使いであるカワウソの悪行の経緯を説明し、カワウソに代わって許しを請う。この夢見で真意が伝えられるカムイは、代理されるカムイも含めればその総数が七に上り、夢のあとさき(夢見の順番)やそこでのカムイの世界やアイヌ(人間)の世界の理屈について、アイヌ語を通してさらに考察を展開する豊かな可能性が与えられているであろう。

このような物語構成の複雑さは、金成マツが伝承している物語にはそもそも複雑な構成と細やかな心理描写を伴うものが多いという、語り手としての特徴にもとづくものかもしれない。あるいは、主人公が(道東で英雄叙事詩サコロペや散文説話トゥイタクの主人公で出てくることの多い)オタスツの少年オタストゥンヘカチまたはポンオタストゥンクルであるという、英雄叙事詩と散文説話の境界領域に位置する物語である、という要因がもたらすものであるかもしれない。

また、萱野茂は『炎の馬』において、この金田一京助宛金成マツ筆録ノートに記録された散文説話を複数日本語で公開しており、この物語もその一つである(萱野 1977: pp.15-24)。興味深いことに、萱野茂の記述には、金成マツの元の筆録にはない内容が補われている。例えば主人公が大きくなっていく様子は、金成マツの筆録では

semor porono sikuppirka=an noyne yaykota ne yakka yayreka=an kane an=an

少し大きくなり、美しく僕は成長するようで、[容貌について]我ながら自惚れている。

(藤田 2021b: p.151)

とのみある。一方、『炎の馬』では、「やがて、おちんちんを出して歩くのが恥ずかしく、坐るときは着物の袖を引っぱって股の間を隠すほどの年頃になる」とある(p.16)。これは、アイヌ語の口承の物語の語りではよく見られる常套表現ではあるが、金成マツの筆録原文にはない。続く「お爺さんは私を山に連れて行き、熊狩の方法や狩に使う弓矢の作り方、矢に塗る毒の調合の仕方などを教えてくださいました」という内容なども、金成マツの筆録原文にはない。このような箇所は、萱野茂が物語の筋は変えずに細部を補いつつ、自身が考える散文説話の良い形に仕立てて紹介していると言えそうだ。

また、主人公と対抗してモイサムの女と結婚しようとするカワウソが海から上陸する場面では、金成マツの筆録原文では、カワウソの脚が一本ずつ人間の足に変わっていくのを、主人公は足跡から見てとっているが（藤田 2021b : pp.155-156）、萱野茂による紹介では実際に変身する過程を主人公が見てとったことになっている（萱野 1977 : pp.17-18）。また、山のカムイと沖のカムイが主人公に夢を見せる場面は、金成マツの筆録原文ではおじいさんの後で、海を守護するカムイの前であるが、萱野茂のバージョンでは順番の最後に補足的に入れられており、元の夢見の順序とは異なっており、またそれぞれの妹二人が主人公に夢を見せたことになっている（同、p.23）。また物語の結末近い部分は大幅に省略され、「一年に一頭のクジラを海の神から贈られ」（同、p.24）という金成マツの原テキストにはない内容が追加されている。

これは、萱野茂による紹介が、同氏による「語り直し」となっていることを意味しているようである。物語の骨子は変わらないなかで、特定の箇所を理解するために必要と思われた内容が常套表現などを用いて補われ、物語の中で丁寧に展開する場所と省略しつつ語る場所がもうけられ、また物語の骨子を変えない範囲で、こうであるはずだと思われた内容が挿入・追加されている。これは、萱野茂氏の仕事を通して、口承文学の伝承の過程で何が起きているのかについて、重要な知見がもたらされる可能性があるということになりそうだ。その意味で、同書に収められた他の金成マツ氏の筆録テキストの原文対訳が公開され、萱野氏の文章と比較検討されることで、さらなる知見がもたらされるであろうし、また沙流地方で萱野氏が録音したその他の物語についても、その原録音と原文対訳テキストの公開がさらに進むことで、アイヌ語口承文学の調査者であり伝承者でもあった萱野茂氏の姿が、より一層明らかになってくるものと期待される。

参考文献一覧（原文対訳の脚注で使用しているものは下に別途まとめる）

萱野茂（1977）『炎の馬——アイヌ民話集』すずさわ書店。

藤井貞和（2022[2004]）『物語論』講談社（講談社学術文庫）。

藤田護（2021b）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「カワウソが私に化けるウェペケレ（esaman i=sinere uepeker）」（前半）」『ユーラシア言語文化論集』第 23 号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座、pp.143-181。

藤田護（2021a）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「金の煙草入れ（konkani tampakop）」」中川裕編『アイヌ語・アイヌ文化研究の課題』千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書、第 358 集、pp.15-42。

藤田護（2018）「金成マツ筆録ノートの口承文学テキストの原文対訳及び解釈——散文説話「六人の山子（iwan yamanko）」」中川裕編『アイヌ語の文献学的研究（3）』千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書、第 325 集、pp.25-65。

2. ものがたり

（前半より続く——主人公のおじいさん（家を守護するカムイ）が話している）

まだお前が小さい頃、クスの者たちがお前の父の宝物を欲しがり、トパットゥミを仕掛けてくる。お前の父は霊力が強いので、カムイの助力でクスの連中は目の前に靄をかけられ、昼も夜も分からず、自分たちがどこにいるかも分からなくなり、遠く断崖の底に落ちて死んでしまった。

お前の父と母は、「このまま人間の世界にいと自分を憎む者がいて面倒だから、カムイの世界に行って真の結婚をしよう」と言って、火の媼神や私や祭壇を守護するカムイに後を頼んで、去っていく。なので、私がお前のおじいさんとなり、一人前の男になるまでお前を育て、先祖からの言葉の通りに許嫁を訪ねさせ、お前がそこで二、三日逗留してくるだろうと思っていた。

沖のカムイ（レブンカムイ＝シャチ）と山のカムイ（キムンカムイ＝クマ）は互いに仲が良く、互いの妹がそれぞれと結婚することにして、毎年一回互いを訪問していたのだったが、今年は忙しくてまだそれをしていない。今年はそれぞれの妹たちが夫をとれるほど大きくなったので、シャチの妹に彼女の墓の背負い袋を、自身は沖の獲物の良いものをもち、クマの方でも同様のことをして出かけ、私の家の上で互いがバツタリ会う。互いに驚いて笑い合い、さてどちらに向かうかとなったところで、私が一人で寂しくしていて、沖や山の獲物を食べたくも思っていることを心で見抜いて、気の毒がり、人間を混ぜないでカムイたちだけで食事をするようになったのだ。私たちがよもやま話をしていると、突然人間の来る気配がしたので、カムイたちは驚いて、自分たちの荷物を全て放り出して、それぞれの家へと帰って行ってしまった。

私は驚いて見通してみると、お前に大変な出来事があり、そのために早く帰って来て、カムイたちの話をすべて聞くことになったことが分かった。お前は、カムイの加護を受けて今よりも裕福になるだろうし、私もお前のおじいさんとしてではなく、家を守るカムイ（チセコロカムイ）として、いつまでもお前を見守るつもりだ。お前の心はすべて見通して、私は感謝しているし、お前の作ったイナウや酒で、私のカムイとしての格が高まると思って喜んでいる」とこれまでの長い話を伝えてくれる。

私は目が覚めて、驚き、かつ恐縮していると、再び眠くなって寝てしまう。枕上には、白い小袖を来たカムイと黒い小袖を来たカムイが座り、笑いながら、「あなたが不意に戻ってきたので、荷物をすべて置いてきてしまったが、私たちの荷物はあなたにあげることにし、私たちの妹二人の背負い荷はあなたの妻のモイサムの女性にあげようと妹たちが話している」と言う。

私は目が覚めて、嬉しく思っていると、また眠くなって寝てしまい、枕上には金の小袖ばかりを重ね着した、たいへん立派なカムイが座り、「私は海を守護するカムイ（アトゥイコロカムイ）で、カワウソを使いとして使っている。このカワウソは真の勇者で、なんの至らないところもなかったのだが、私がふと油断したあいだに、このカワウソの屍が海に投げ込まれ、あなたの言葉

のおかげでカムイたちがこちらを振り向くこととなる。驚いて見通してみると、このカワウソがカムイの世界に良い結婚相手を見つけられず、モイサム的女性が器量も良く、手先も器用なので、心底惚れて、殺して魂を盗んでカムイの世界で結婚しようとしていたのだが、あなたの憑神の力が強いので、あなたがその日にやって来て、二人が戦うことになる。あなたは人間としてたいへん力が強く、このおそろしいカワウソを殺してしまう。カムイたちの中には、カワウソを湿った地底の国（ポクナシリ）へ追放しようと厳しいことを言うものもいるが、私は若いカワウソがやったことであり、モイサム的女性に対し何もしないままに殺され、面目を潰されて恥じ入っていることを気の毒に思い、このカワウソを生き返らせた。カワウソも大いに恥じ入って、カムイたちにもあなたにも詫言っているのだから、許してやってほしい。お詫言に、私からクジラを一匹村の港の入口へと上げることにしたい」と言う。

私が目を覚ますともう昼であり、村人たちが心配して家の外まで集まってきている。足の速い者をモイサムへの使いに出し、私の兄（モイサムンクル）に妹を連れて来るように伝え、村人の主だった者たちに酒を醸させ、穀物を搗かせて団子を用意する。そうこうしているうちに、クジラが上がったと伝えられ、もっと時間がかかると思っていたのに私はびっくりする。兄と私は二人で盛装して、何度もオンカミ（拝礼）を重ね、村人たちも踊を舞う。モイサムの人たちとも協力してクジラの肉を切り分け、皆とこれを分け合う。酒が美味しくなったので、私は酒宴の準備をして、数多くのイナウを削り、村人たちにも削らせて、家を守護するカムイ、幣場を守護するカムイ、海を守護するカムイ、沖のカムイ（シャチ）や山のカムイ（クマ）へと祈りを捧げる。沖のカムイと山のカムイの妹たちの背負い袋の中身を、言われた通り私の妻へと差し出すと、そこには極上の宝物やら着物が入っていて、兄は何度もオンカミをして私に感謝する。先祖供養もし、沖のカムイと山のカムイの背負い荷に入っていた美味しい食べ物を楽しむ。カムイたちも人間たちも、喜び、安心したことが私は分かる。兄にも本当の淑女をめとらせ、兄は大いに感謝しながらモイサムへと帰っていく。

私はモイサムの女と連れ添い、幸せに暮らす。私は山と海の獲物に恵まれ、妻は畑を作っていくつもの倉を立て、我々は美味しいものを食べて暮らす。村人たちも獲物の美味しい部分など食べ物を差し入れてくれ、私も自分が獲ったものを分け与える。モイサムの兄夫婦の素晴らしい評判も聞きながら暮らす。私たちは何人も子どもをもうけ、男の子は私の仕事を手伝い、女の子は妻の仕事を手伝い、満ち足りた暮らしをして年を重ねる。子どもたちが獲物をとったり畑を作ったりするようになり、結婚し、孫たちが生まれ、私はその子たちをかわいがっている。

私は自分の小さい頃からの話をすべて聞かせ、「良い心がけをもっていれば、難題にぶつかってもカムイが振り向いてくれるので、カムイたち、先祖たちに祈りを捧げれば、カムイが見守ってくれて、食べていけるのだ」と伝える。私は人間の風習、カムイの風習にのっとって、立派な年のとり方をしているのだ。

と、オタスツの大そう精神の良い長者が言い伝えて、なくなる。

3. 翻刻・現代表記・原文対訳

留意点

原ノートは、それぞれのページの左端だけを使って書かれており、したがって頻繁な改行がある。改行はすべて半角の「/」で示している。またアルファベットは筆記体で、金成マツの他の筆録と比べても、相当に詰めて書かれている。そのため、少しでも切れ目が見える場合には、そこにスペースがあると判断しているが、そこにスペースが本当にあるかどうかの判断はなかなか難しい場合もあり、また切れ目がない場合でも、文字のつながりを少し長めに伸ばしている際に、スペースがあると判断できる場合もあるかもしれない。ノートにはページ番号が振っていないため、筆録の最初のページを1とした通し番号を振った。本稿で扱っている箇所では途中でノートが替わっているため、71ページの後ろにまた1ページがくる。以下は、ノートのページごとに翻刻、現代表記、および翻訳を示していく。

現代表記については、ここまで千葉大学の各種刊行物で用いられた表記方法を、踏襲している。なお、翻刻については厳密にページに従って記しているが、現代表記と翻訳では、ページをまたぐことで理解が困難になると思われる語句のつながりについては、前のページか後ろのページに移して、まとめた箇所が存在する。現代表記と翻訳については、後の整理の便宜を考え、ページ数とそのページ内の行番号を組み合わせた行番号を、それぞれ振ってある。

日本語訳については、アイヌ語が文法的に時制をもたない言語であることを考慮し、アイヌ語の助動詞 **a** がない場合には、日本語の助動詞「た」を極力使わないで訳すことを試みている。これは、日本語の古典物語文学も非過去の語りで語られているという特徴を、アイヌ語の物語の訳につなげようとするものである（藤井 2022[2004]）。どうしても日本語で非過去で訳し続けると時間の脈絡が分かりにくくなる箇所があり、そのような場合には理解の便宜のために過去で訳している。

文献略号

- 【沙流辞典】：田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館。
- 【萱野辞典】：萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典（増補版）』三省堂。
- 【神謡集辞典】：切替英雄（2002[1989]）『アイヌ神謡集辞典——テキスト・文法解説付き』大学書林。
- 【方言辞典】：服部四郎編（1964）『アイヌ語方言辞典』岩波書店。
- 【久保寺辞典稿】：久保寺逸彦（2020[1992]）『アイヌ語・日本語辞典稿』（久保寺逸彦著作集④）

草風館。

【地名小辞典】：知里真志保（1956）『地名アイヌ語小辞典』楡書房。

【虎杖丸】鍋沢ワカルバ語り、金田一京助訳注（1993[1931]）「虎杖丸——変怪の憑依、恐怖の憑依」『金田一京助第9巻——アイヌ文学Ⅲ』三省堂。

【ユーカラ集】：金成マツ筆録、金田一京助訳注（1959-1975）『ユーカラ集 I～IX』三省堂。

【ユーカラシリーズ】：金成マツ筆録、萱野茂・蓮池悦子・萱野志朗・切替英雄・高橋靖以訳注（1978-）『ユーカラシリーズ』各巻、北海道教育委員会。

【神謡聖伝】：久保寺逸彦（1977）『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』岩波書店。

【神謡集】：知里幸恵（1978[1923]）『アイヌ神謡集』岩波書店（岩波文庫）。

【神謡集を読みとく】：片山龍峯（2003）『「アイヌ神謡集」を読みとく』草風館。

【静内伝承】：複数著者（1991-1995）『静内地方の伝承 I～V——織田ステノの口承文芸（1-5）』各巻、静内町教育委員会。

金成アシリロ口述、金成マツ筆録、蓮池悦子訳注（2002）「山の神（熊神）の陰茎と睾丸が濡れる」『トゥイタク（昔語り）4』北海道教育委員会、pp.53-112。

翻刻と原文対訳

p.51

【原文翻刻】

naa epon kane / ~~kushr~~¹ kusur / un utara / eonaha kor / kamui / korbe / konrusui kusu / tobattumi / kunnetota / sapte wa / eonaha / sermaka / nonnoitak / yakka / sermaka / yupkep / Eona nekusu / tunashno / kamui / hosarpa kusu / kusur unrup / shiketoko / Aurar /

【現代表記・訳】

5101 naa e=pon kane Kusur un utar e=onaha kor kamuykorpe kor_ rusuy kusu

まだお前が小さい頃、クスのやつらがお前の父の宝物を欲しがって、

5102 topattumi kunneto ta sapte wa

トパットゥミ（襲撃）を夜のうちに川筋を下りて仕掛けてきて、

5103 e=onaha sermaka nonnoytak yakka

お前の父は自分の背後に祈り言葉を唱えるにつけても、

5103 sermaka yupke p e=ona ne kusu tunasno kamuy hosarpa kusu

背後の霊力が強い者がお前の父であるから、カムイが素早く振り向くので、

5104 Kusurunrup² siketoko a=urarotte wa

¹ いったん書かれた後で横線で消されている。

² unrup:住民（【萱野辞典】p.88）。同書ではこれをun-rupと解釈しているが、金田一京助は【ユーカラ集】でuuru-pであるとしている（例えば【ユーカラ集3】p.91）。【ユーカラ集】【神謡聖伝】【静内伝承】などで、この-unrupは直前の地名と合わせて一語で表記されており、ここでもそれに従う。

クスの連中は目の前に霞をかけられて、

p.52

【原文翻刻】

ottewa / otasutkotan / Eshiknakwa / ekeshne / shitempa / tempa / neita shiripekere / neita / shirkunneya / erambetekpa / rok ine / obittano / toop tuima / nisei asam / korauoshmawa / raiwa isam / neiambe kusu / Eona umurek / Ainu kotan / otta ohonno / okai yakun / sui newaka /

【現代表記・訳】

- 5201 Otasut kotan esiknak wa ekesne sittempatempa
それによってオタスの村が見えなくなり、あちこちを手探りし、
- 5202 ney ta sirpeker ney ta sirkunne ya erampetek pa rok h_inē
いつ夜が明け、いつ日が暮れるのか分からずにいて、
- 5203 opittano toop tuyma nisey asam korawosma wa ray wa isam.
皆がはるか遠くの断崖の底に飛び込んで、死んでしまった。
- 5204 ne an pe kusu e=ona umurek
ということで、お前の父と母は
- 5205 “aynu kotan or_ta ohonno okay³ yakun suy ne wa ka
「人間の村に長く暮らしたら、またも

p.53

【原文翻刻】

Ikeshkep / Arkiko / ramupekamam / Ankusu / kamui ottabaye / Anwa / shino ukor / sonno ukor / Aki kusu ne / Ari haweokai / koro kamui / orun baye / kamui / huchi newa / Aokai newa / nusa kor / kamui / Kamui patek / Eiko itak nuye / ruwe ne / tambe kusu / Ekor ekashi /

【現代表記・訳】

- 5301 i=keske p arki ko ramupekamam=an kusu
私を憎む者たちが来ると私たちが難儀するから、
- 5302 kamuy or_ ta paye=an wa sino ukor sonno ukor a=ki kusu ne”
カムイの世界へ私たちは行って、本当の結婚、真の結婚をしようぞ」
- 5303 ari haweokay kor kamuy or un paye
と二人で言いながら、カムイの世界へと行き、
- 5304 kamuyhuci newa aokay newa nusakorkamuy
火の姫神やら、私やら、祭壇を守護するカムイ（ヌサコロカムイ）やら、
- 5305 kamuy patek eikoytaknuye⁴ ruwe ne.

³ この okay は主語が主人公夫婦であると考えられるが、人称接辞=an がつきそうに思うが、ついていない。

⁴ この語形が muye ではなく nuye となるのは、金成マツの特徴で、金田一京助も aikoitaknuye wa に

カムイばかりに後の世話を頼んでいくのだ。

5306 tanpe kusu e=kor ekasi

なので、お前のおじいさんに

p.54

【原文翻刻】

Anewa tane / okkai pakno / eshikupka / Anruwene / shinrit / hoppa itak ne / kusu / tanto / emachihi
/ ehotanukare an / tutko rerko / etori kuni / batek / Aramu / ruwene / Rebun / kamui / kot tureshi
/ kimun / kamui kot / tureshi / utashpa / Aukopakashnu wa /

【現代表記・訳】

5401 a=ne wa okkay pakno e=sikupka=an ruwe ne.

私はなって、(一人前の) 男となるまでお前を育てたのだ。

5402 sinrit hoppa itak ne kusu tanto e=macihi e=hotanukare=an

先祖が残した言葉なので、今日お前にお前の妻を訪ねさせ、

5403 tutko rerko e=tori kuni patek a=ramu ruwe ne.

二日、三日お前が逗留するだろうとばかり私は思っていたのだ。

5404 repunkamuy kor_ turesi kimunkamuy kor_ turesi

沖のカムイ (シャチ) の妹と、山のカムイ (クマ) の妹が

5405 utaspa a=ukopakasnu⁵ wa

お互いにお互い [の兄] と結婚するようにし、

p.55

【原文翻刻】

rupneko / uhekotpa kunine / shiran ruwene / tambe kusu / Rebun / kamui newa / kimun / kamui /
shino / uwekatairotkewa / keshpa / Arshino renke(?) / ushpa / ukoshineupa wa / keshto /
uweneusar / orowa / uwekoppa / ranke awa / tampa obittano / monkookai wa / utashpa /
uhotanukar

【現代表記・訳】

5501 rupne ko uhekotpa kuni ne siran ruwe ne.

大きくなったら [二人が] 連れ添うことになっているようだ。

5502 tanpe kusu repunkamuy newa

こういうわけで、沖のカムイ (シャチ) と

5503 kimunkamuy sino uekatayrotke wa

山のカムイ (クマ) はたいへん仲が良くて、

対し「aikoitakmuye wa か」と注を付けている(【ユーカラ集6】p.173)。

⁵ ukopakasnu 「幌別 結婚させる」(【方言辞典】p.45)。ここについている4人称の人称接辞 a= は、不定人称であろうか。

- 5504 kes pa arsino renkeuspa(?) ukosinewpa wa
毎年一度 XXX (語義不明) し、互いを訪問して、
- 5505 kes to uenewsar orowa uekoppa ranke awa
毎日よもやま話をして別れるというのを毎回していたが、
- 5506 tan pa opittano monkookay⁶ wa utaspa uhotanukar somo ki.
今年は皆が忙しくて、互いに互いを尋ねることをしていない。

p.56

【原文翻刻】

somoki / tane eusa / turesh utari / hoku kor / eashkai pakno / rupne wa kusu / rebunkamui /
tureshihi / hokukorwakte / kusu / ketushi serewa / Anihi anak / rebun / chikoikip / pirikai / boronno
sewa / utura wa / yapruwene / rabokita sui / kimun / kamui / neyakka / ukorachi

【現代表記・訳】

- 5601 tane eusa⁷ turesutari hokukor easkay pakno rupne wa kusu
今では、それぞれの妹たちが、夫を取れるまで大きくなったので、
- 5602 repunkamuy turesihi hokukorwakte⁸ kusu ketusi sere wa
沖のカムイ (シャチ) の妹に夫を取らせに (?), 彼女の莫藪の背負い袋を背負わせて、
- 5603 anihi anak repun cikoykip pirka _hi
彼はといえば沖の獲物のよいものを
- 5604 poronno se wa utura wa yap ruwe ne.
沢山背負って、一緒に上陸してくるのだ。
- 5605 rapoki ta suy kimunkamuy ne yakka ukoraci yaynu wa
その間に、また、山のカムイ (クマ) の方でも同じように考えて、

p.57

【原文翻刻】

yainu wa / kimun / kamui / haruhu / boronno sewa / tureshi / hoku kore / kusu / ketushi serewa /
shinetoneno / sapko / tan aunchise / enkashita / uwetunankar / shino ukoiyokunnure / Euminare /
nekonikichi / Anko / pirika / ruwetaan / herebashi / bayeankohe / pirika /

【現代表記・訳】

- 5701 kimunkamuy haruhu poronno se wa

⁶ monkoan 「幌別 忙しい」【方言辞典】p.110 ; 「忙しいことがある、働く、忙しい」【久保寺辞典稿】p.185。ここは複数形になっている。

⁷ eusa 「各, a. each」【バチラー辞典】p.142。

⁸ 語義不明。hokukor 「夫をとる」に何が後ろについているのであろうか。【久保寺辞典稿】(p.219) には omante と iwakte が同じ意味だとあり、また【バチラー辞典】には wakte で「分ける、割譲する To divide, to apportion, to send away」とある (p.554)。とすると hokukor-wakte で「夫をとりに-送り出す」という意味になるだろうか？

- 山のカムイ（クマ）の食糧をたくさん背負って、
 5702 turesi hokukore kusu ketusi sere wa
 妹に夫を取らせるために、自分の墓の背負い袋を背負わせ、
 5703 sine to neno sap ko tan a=un cise enkasi ta uetunankar
 ある日そのように川下に下りて、この私の家の上でバツタリ会い、
 5704 sino ukoioikunnure euminare.
 たいそう互いに驚き合い、そのことを笑い合い、
 5705 “nekon ikici=an ko pirka ruwe ta an.
 「どのように私たちはすればよいかな。
 5706 herepasi paye=an ko he pirka
 沖に向かって行くのが良いだろうか

p.58

【原文翻刻】

ekimun / baye / ankohe / pirika / ruwe taan / ari hawe okai kor / shinen / Anewa / yaikonishmu /
 Anshiri / chikioikip / Aerusui wa / moisamun / Eomante ani / ramnukarpa / hine / Ierampokenpa
 / kusu / oainu sakno / heru kamui / Anewa / ramoshiwano / nupetneno / Ibean

【現代表記・訳】

- 5801 ekimun paye=an ko he pirka ruwe ta an”
 山に向かって行くのが良いだろうか」
 5802 ari haweokay kor sinen a=ne wa yaykonismu=an siri
 と言っていると、私は一人でいて寂しくも思い、
 5803 cikoykip a=e rusuy wa
 山や海の獲物を食べたくて、
 5804 Moysam un e=omante=an h_i
 モイサムへとお前を私が行かせたことを
 5805 ramnukarpa⁹ hine i=erampoken pa kusu
 （彼らは）心に見抜いて、私のことを気の毒に思うので、
 5806 oaynusakno heru kamuy a=ne wa ramosiwano nupetneno ipe=an
 人間を混ぜないで、ただ私たちカムイだけで、心の底から喜んで食事をし、

p.59

【原文翻刻】

uweneusar an / kor okai an awa / Ekushkonna / nep aekampakka / somokino / Ainu / Ek humash
 wa / Aobittano / sonno sonno / ruihomatu / Anruwene / kamui / utara / homatpa wa / kamui /

⁹ ramnukar 「試みる、巫もて見てしまひたり / ram-nukare 心に見抜いている / ko~ ~へ試みる」(【久保寺辞典稿】p.259)

menko / utar / turano / shikehe / hene / ketushi / hene / obittano

【現代表記・訳】

- 5901 uenewsar=an kor okay=an awa
あれこれと話しながらいただが、
- 5902 ekuskonna nep a=ekampak ka somo ki no
突然、何も私が予想もしていなかったことに、
- 5903 aynu ek humas wa a=opittano sonno sonno ruyhomatu=an ruwe ne.
人間が来る感じがして、我々は皆が本当に本当にひどく驚いたのだ。
- 5904 kamuy utar homatpa wa kamuy menoko utar turano
カムイたちが驚き、カムイの女たちと
- 5905 sikehe hene ketusi hene opittano
背負い荷やら莫産袋やらすべて、

p.60

【原文翻刻】

ehobiru wa / toop unihita / kirawa / bayehine / ukoiyokunure / kor okai ruwene / nepkusu / tane /
shirpeker / ehanke kane / Eek ya / homatu / ankorka / Inkaran / Awa / oroyachiki / Apkash / tuikata
/ Boroyayhumsu / eki wa / tambe kusu / ene tunashno / Eek wa

【現代表記・訳】

- 6001 ehopiru¹⁰ wa toop unihi ta kira wa paye hine
残し置いて、はるか遠くの自分たちの家へと逃げて行き、
- 6002 ukoiyokunure kor okay ruwe ne.
皆が大いに驚いているのだ。
- 6003 nep kusu tane sirpeker ehanke kane e=ek ya
どうして今、夜明け近くにお前が帰ってきたのか、
- 6004 homatu=an korka inkar=an awa
私はびっくりしたが、見通してみたところ、
- 6005 oroyaciki apkas tuyka ta poro yayhumsu¹¹ e=ki wa
なんと行く最中に大変な不意の出来事をお前は経験して、
- 6006 tanpe kusu ene tunasno e=ek wa
そのためにこのように早く帰って来て、

p.61

【原文翻刻】

¹⁰ Ehopiru : 離ルル, 去ル. v.t. To leave. To go away from (【バチラー辞典】 p.106) ; ehopirpa : 残して置く (【久保寺辞典稿】 p.57)

¹¹ Yaihumshu 「不意の出来事 n. An accident」 (【バチラー辞典】 p.561)

orsetakko / kamui / orushbe / obittano / chiannonu / eki awan / tambe / obittano / kamui tura / shinekunne / enekusu / kamui / koinkar / eki wa / shukup / tuikata / Nishpa / enei / naa naa / kasuno / nishpa / ene kusu ne / tewano /

【現代表記・訳】

- 6101 orsetakko¹² kamuy oruspe opittano ciannonu¹³ e=ki awan.
長い間カムイたちの話を全て尽く聞くことをお前はしたのであった。
- 6102 tanpe opittano kamuy tura sine kunne p e=ne kusu¹⁴
これは全てカムイと一つひとのお前であるので、
- 6103 kamuykoinkar¹⁵ e=ki wa sukup tuyka ta
お前は良い運に恵まれ、生涯を通して
- 6104 nispa e=ne a h_i naa naa kasuno nispa e=ne kusu ne.
お前がそれまで裕福であったのよりも、もっともっとはるかに裕福になるだろう。

p.62

【原文翻刻】

anakne / Ekor / Ekashi / Ainu / Ekashi / Anewa / Abesamta / somo / Ananruwe ne / koroka / hushkone / korachi / chisekor / kamui / Anewa / chisesopane / Aehorari wa / neita bakno / neyakka / Eebunkine / Ankusu ne / eani neyakka / eonaha

【現代表記・訳】

- 6201 tewano anakne e=kor ekasi aynu ekasi a=ne wa
これからは、お前のおじいさん、人間のおじいさんとして
- 6202 ape sam ta somo an=an ruwe ne korka
いろりのそばに私はいないが、
- 6203 huskone koraci cisekorkamuy a=ne wa
以前からのように私は家を守るカムイとして
- 6204 cisesopa ne a=ehorari wa ney ta pakno ne yakka e=epunkine=an kusu ne.
家の奥座に私は鎮座して、いつまでも私はお前を守護するつもりだよ。
- 6205 eani ne yakka e=onaha koraci

¹² orsetakko 「随分永らく」(【久保寺辞典稿】p.225)

¹³ 金成マツ氏は cianno で「まったく」という意味で使うようである。英雄叙事詩の文脈では、例えば chiannokoiki / aekarkar「全く討ちまかされた」(【ユーカラ集3】p.68) ; chianno akar / iyekarkar wa kusu「ことごとく打ち負かされたから」(【ユーカラ集3】p.205) ; chiannoraike / eiekarkar「全殺を汝我に加える」(【ユーカラ集8】p.237) ; chiannotuipa / aiekarkar / ki ruwe-ne「全く打ち負か され つべし」(【虎杖丸】p.160) などの例が見える。

¹⁴ cf. Kamui tura / shine kunne / sermaka yupkep / ene kusu 「神と ひとつな方 (かた) であり 守り神の強いひとで お身があるから」【ユーカラ集2】p.144 ; kamui tura / shine kunne / ene na 「神と ひとつひとのおまえだ」【ユーカラ集3】p.51。カムイの加護を受けた人間という意味で用いられるのであろうか。

¹⁵ Kamui-koingara 「恵マレタル adj. blessed, lucky」【バチラー辞典】p.226。

お前もお前の父のように

p.63

【原文翻刻】

korachi / pirika / keutum / Ekor¹⁶ kusu / eyainushiri / Eiramu / shirihene / obittano / Aramnukare / kamui / Aneyakka / chishpakno / yaiiraike an / eani somo / Einukar / yakka / Aokai anakne / kunne hene / tokap hene / ramma / Enukaran / ruwetap anna / tewano /

【現代表記・訳】

- 6301 pirka kewtum e=kor kusu e=yaynu siri e=iramu siri hene
良い心をお前は持っているので、お前の考えること、お前の思うことも、
- 6302 opittano a=ramnukare.
すべて私は心を見通している。
- 6303 kamuy a=ne yakka cis pakno yairayke=an¹⁷.
私はカムイであるが、涙を流すほどに感謝をしている。
- 6304 eani somo e=i=nukar yakka aokay anakne kunne hene tokap hene
お前は私を見ることができないが、私は夜も昼も
- 6305 ramma e=nukar=an ruwe tapan na.
いつもお前のことを見守っているぞ。

p.64

【原文翻刻】

Ekar / tonoto / Eteke kar / Inau / neita bakno / ne yakka / Aeyai i / kamui nerekuni / batek / Aenupetne / kor anan / ruwe tabanna / ari akor / Ekashi / somosetak kane / usa okaibe / obittano / Atpake wano / Iepashkuma wa / okere / bokor yainu / Anko

【現代表記・訳】

- 6401 tewano e=kar tonoto e=tekekar inaw neyta pakno ne yakka
これからお前の作った酒や、お前の手ずから作ったイナウで、いつまでも
- 6402 a=eyaykamuyner kuni patek a=enupetne kor an=an ruwe tapan na”
私のカムイとしての格が高まるだろうとばかり、私は喜んでいるのだよ」
- 6403 ari a=kor ekasi somo setak kane usa okay pe
と私のおじいさんが、だいぶ長い間あれこれと
- 6404 opittano atpake wano i=epaskuma wa okere
すべて最初から私に伝えおき終わる

¹⁶ 最初に Ekar と書かれた後で、その a を o に書き直そうと試みた跡と、その上に o が別に書かれている。

¹⁷ 類似の用例に easka cis pakno iruska=an 「それこそ泣きたくなるほど我輩は腹が立った」 金成アシリロ口述、金成マツ筆録「山の神（熊神）の陰茎と睾丸が濡れる」 p.73。

6405 pokor¹⁸ yaynu=an ko
ように私が思うと、

p.65

【原文翻刻】

mosh an / wentarap / Anhumu / neawan / eashka / shino shino / Iyokunure an / Ainu / hetapne /
orsetak ko / Ireshpa / ruwenekuni / aramu awa / oroyachiki / tapne tapne / Ikkewe / ankusu / chise
kor / kamui / pase kamui / Ireshpa ruwe / nerok aokai / shino

【現代表記・訳】

- 6501 mos=an. wentarap=an humi ne awan.
目が覚める。夢を見ていたのであった。
- 6502 easka sino sino iyokunure=an.
本当にとてもとても私は驚く。
- 6503 aynu he tapne orsetakko i=respa ruwe ne kuni a=ramu awa
人間がこのようにたいそう長いあいだ私を育てているのだろうと思っていたのに
- 6504 oroyaciki tapne tapne ikkewe an kusu
なるほどこれこのような理由があるから
- 6505 cisekorkamuy pase kamuy i=respa ruwe ne rokokay.
家を守るカムイ、位の重いカムイが私を育てていたものであった。

p.66

【原文翻刻】

oribak an / kane / hesashi wa / shikiru / Ana kusu / sui / senneka / mokoran / kuni / Aramu ai /
mokoran / Ierupshiketa / nerok / Retar / kosonte mi / kamui newa / kunne / kosonte mi / kamui
tunne wa / minakane / lhekota / shikirpa hine

【現代表記・訳】

- 6601 sino oripak=an kane hesasi wa sikiru=an akusu
たいへん私は恐縮し、前の方へと私は向き直ったところ、
- 6602 suy senne ka mokor=an kuni a=ramu a h_i mokor=an.
また少しも眠ろうとも思っていなかったのに、眠ってしまう。
- 6603 i=erupsike ta nerok¹⁹ retar kosonte mi kamuy newa
私の枕上にあの白い小袖を着ているカムイと

¹⁸ pokor (胆振方言) =pekor 「のように」【ユーカラ集3】p.275。金成マツ氏の筆録文字では o と e の区別が紛らわしいことがあり、蓮池悦子氏の読み取りでも pekor と pokor で割れている。また、藤田 (2018) でも pekor としてしまっているが (p.57 の注 123 を参照)、どうもこれは pokor であるようだ。以下原ノート p.69 にも同じ単語が見える。

¹⁹ 前稿 (藤田 2021b) の原ノート p.31 から p.32 にかけて、これらのカムイの描写が出てきていた。ここでの nerok はそれを受けたものだと思う。

- 6604 kunne kosonte mi kamuy tun ne wa mina kane
黒い小袖を着ているカムイが、二人で笑いながら
- 6605 i=hekota sikirpa hine
私の方へと向き直って、

p.67

【原文翻刻】

enehawe / okai hi / Inkar / tan / otasut un / hekachi / itak anchiki / pirikano / nuyan / ene nep /
okai I obitta no / chise kor / kamui / orowano / Enu okere kusu / Aokai utar anak ne / nepka /
somo aye / ouse / Einisapushkap / nepne kusu / Ashikehe

【現代表記・訳】

- 6701 ene haweokay hi
このように言う――
- 6702 “inkar tan Otasut un hekaci itak=an ciki pirkano nu yan.
「さてこのオタスツの少年よ、私が話すから、よく聞くのですよ。
- 6703 enene p okay h_i opittano cisekorkamuy orowano e=nu okere kusu
かくかくのことがあったことを、全て家を守るカムイからあなたは聞き終えたので、
- 6704 aokay utar anakne nep ka somo a=ye.
私たちは（そのことについては）何も言いません。
- 6705 owse e=i=nisapuskap²⁰ ne p ne kusu
ただあなたが私たちを不意打ちしたものだから、
- 6706 a=sikehe
私たちの背負い荷を

p.68

【原文翻刻】

obittano / Aehobiru / ruwene kusu / tun ane wa / Ashikehe / obittano / Ekore ankusu ne / Atureshi
/ utari / ketushi / obittano / ene iyoi / neino / okai wa / moisam / ummat / etureshi / Aekash / nukar
kusune / ari Aturesh / utari / hawe okaina / tambe hemem

【現代表記・訳】

- 6801 opittano a=ehopiru²¹ ruwe ne kusu tun a=ne wa
全て私たちは置き去りにして去ってしまったので、私たち二人で
- 6802 a=sikehe opittano e=kore=an kusu ne.

²⁰ anisapushkap 「我が不意の奪略者」【ユーカラ集 3】p.214 ; 「不意打ちされた」【ユーカラ集 4】p.143。

²¹ Ehopiru 「離レル、去ル v.t. To leave. To go」【バチラー辞典】p.106 ; iukoehobiru ruwe(1) 我らを置き去りに去ったこと (1) hopiru 「置き去りにする」【ユーカラ集 7】p.96。

自分たちの背負い荷を全てあなたにあげようと思います。

- 6803 a=turesi utari ketusi opittano ene io h_i neno okay wa
私たちの妹たちの莫塵袋もすべて、物が入ったままの状態であって、
- 6804 Moysamunmat e=turesi a=ekasnukar kusu ne
モイサムンマツであるあなたの妻に、私たちはそれを授けようと思います
- 6805 ari a=turesutari haweokay na.
と、私たちの妹たちが話しているのですよ。
- 6806 tanpe hemem eraman”
そのこともまた了解してください」

p.69

【原文翻刻】

Eraman / Ari hawe / okai pokor / yainu anko / mosh an / shino / yaikobuntek an / hentomota sui / mokor an / kannasui / Ierupshiketa / kani kosonte / batek utom echiu / kamui / enewapoka / Areka ika / isam / kamui / baworo mina kane / An hine / Ihekota / shikiru wa / ene itak hi / Inkar tan

【現代表記・訳】

- 6901 ari haweokay pokor yaynu=an ko mos=an. sino yaykopuntek=an.
と（二人が）言うように思うと、私は目が覚める。私はたいへん嬉しく思う。
- 6902 hentomo ta²² suy mokor=an kannasui i=erupsike ta
いつしかまた私は眠り、またもう一度私の枕上に
- 6903 kani kosonte patek utomeciw kamuy
金の小袖ばかりを重ね着したカムイ、
- 6904 ene wa poka a=reka h_i ka isam kamuy
まったく非を打つべきところが全くないカムイが、
- 6905 paoromina²³ kane an hine i=hekota sikiru wa ene itak hi
微笑んでいて、私の方へと振り向いてこのように言うには――
- 6906 “inkar tan
「さて、この

p.70

【原文翻刻】

otasut un / Ainu hekachi / Itakan chiki / pirikano / nuyan / Aokai anakne / Atuiakor / kamui / Ane ruwene / Ikkewe ambe kusu / Esaman / Rametok / Auitek wa / anruwene / usa wayashnu / usa okirashnu / sonno / rametok / neruwene / tanepakno / Auitek ko / nepka / uhaitaburika /

²² hentomo ta 「あるとき」【ユーカラシリーズ 32】単語索引。

²³ Pa-oro-mina 「微笑スル. v.t. To smile」【バチラー辞典】p.380。

【現代表記・訳】

- 7001 Otasut un aynu hekaci, itak=an ciki pirkano un yan.
オタスツのアイヌの少年よ、私が話すからよく聞くのですよ。
- 7002 aokay anakne atuykorkamuy a=ne ruwe ne.
私は海の守り神（アトゥイコロカムイ）です。
- 7003 ikkewe an pe kusu²⁴ esaman rametok a=uytek wa an ruwe ne.
理由があつてカワウソの勇者を使いとしているのです。
- 7004 usa wayasnu usa okirasnu sonno rametok ne ruwe ne.
彼は利口でもあれば力が強くもある、真の勇者なのです。
- 7005 tane pakno a=uytek ko nep ka uhayta puri ka
今まで私が使っていて、何も至らない振る舞いも

p.71

【原文翻刻】

korsomokino / pirikano / Ayep nuwa / Aomapwa / Auitek kor / Anan ruwene / tanto ponno /
yaikoeramunin / An awa / tanekuran / Arekushkonna / Atemkornoshki / nea esaman / Anraikewe
/ Aikoeyapkiri / kurkashike / Eikoramnukar / Ekia itak / kamui obittano / shine ikinne / hosarpa
ruwene / nep sui

【現代表記・訳】

- 7101 kor somo ki no pirkano a=ye p nu wa
せずに、よく私の言うことを聞くので、
- 7102 a=omap wa a=uytek kor an=an ruwe ne.
私はかわいがって使っているのです。
- 7103 tanto ponno yaykoeramunin=an²⁵ awa
今日少し私は油断していたところ、
- 7104 tanekuran arekuskonna a=temkornoski²⁶
今晚は突然に私の両腕の中に
- 7105 nea esaman anray kewe²⁷ a=i=koeyapkir.
そのカワウソの全くこと切れた屍が私に向かって投げられて、

²⁴ 金成マツの筆録ノートでは、ikkewe an kusu、ikkewe an pe kusu、および ikkewe an pe ne kusu の3つの形が並存しているようだ。cf. enenep ikkewe an kusu 「かくかくの理由があつて」【ユーカラ集1】p.264；ikkewe an pe kusu 「さるべき仔細ありて」【虎杖丸別伝】3078；ikkewe an pe ne kusu 「鹿の腹の中で赤ん坊が泣く」p.233。

²⁵ 既に記録されている例の語形が一致しない。cf. ponno yaikoeram-(4) / ninan rapokita 「ちょっとうっかりしていたあいだに」 (4) yai-ko-e-ram-nin-an 「自分・と・それについて・心・解ける・われ」【ユーカラ集5】p.303。【久保寺辞典稿】には yaikoeramewnin と yaikoeramnin という二つの語形が載っている (p.374)。いずれもここでの yaikoeramunin という語形ではない。

²⁶ temkornoshki 「腕の中」【ユーカラシリーズ35】単語索引)

²⁷ kamuineambe / anrai kewehe 「おえらいおかたの 全く死んだむくろ」【ユーカラ集1】p.273

- 7106 kurkasike e=i=koramnukar e=ki a itak
その上にあなたが私の意向を見るためにお前が話した言葉で、
- 7107 kamuy opittano sine ikinne hosarpa ruwe ne.
カムイたちが皆一斉に振り向くのだ。

p.1

【翻刻】

Esaman Ishinere uyepekere emkoho

Iyokunure / homatu neya / Aeramishkare / orota eashiri / Inkaran awa / Auitek / Esaman / kamui
otta / yaikotomkap / hunara / yakka / shinepka / sambe / ramuoshma / pirika / menoko /
Isamruwene / tambe kusu / Ainu / moshir uwanpare / awa moisam

【現代表記・日本語訳】

esaman i=sinere uepeker emkoho

カワウソが私に化けるウエベケレの半分

- 0101 nep suy iyokunure homatu ne ya a=eramiskare.
何とまた私は驚いてたまげたのか分からない
- 0102 oro ta easir inkar=an awa a=uytek esaman
そこで初めて私が目を向けたところ、私が使いにするカワウソが、
- 0103 kamuy or_ ta yaykotomka p hunara yakka
カムイの世界で自分に似合う者を探すのだが
- 0104 sinep ka sampe ramuosma pirka menoko isam ruwe ne.
一人も心が気に入る良い女性がないのだ。
- 0105 tanpe kusu aynu mosir uwanpare awa
なので、[そのカワウソが] 人間の国をよく眺めてみると、

p.2

【翻刻】

ummat / Ekoresu an / menoko / tapeashiri / shiretok tura / teketok tura / Arkatetok / omare kusu /
kamui obittano / shiketoko / tushmak wa / Eshinere wa / moisam / ummat / kokantama wa / raike
wa / Ramachi / ukwa / kamui / moshitta / tura wa / hekote ari / yainu kusu /

【現代表記・日本語訳】

- 0201 Moysamunmat e=koresu=an menoko
モイサムの子、あなた [主人公のオタスの少年] の許嫁として育てられた女が、

- 0202 tap easir siretok tura teketok tura
これこそ本当に容貌も良く、手先も器用で、
- 0203 arkatetokomare²⁸ kusu kamuy opittano siketoko tusmak²⁹ wa
[カワウソが彼女に] ぞっこん惚れて、カムイ全員の目先をすり抜けて、
- 0204 e=sinere wa Moysamunmat kokantama wa rayke wa ramaci uk wa
お前に化けて、モイサムの女を騙して、殺して、その魂を取って、
- 0205 kamuy mosir_ ta tura wa hekote ari yaynu kusu
カムイの世界へ連れて行き、連れ添おうと考えるので、

p.3

【翻刻】

Ikia koroka / sermaka / yupkep / Ene kusu / neitohota / Eoman wa / Echi ukoiki / Awan / kamui /
ottahene / nitne kamui / otta hene / Ebetturaship / Isambe / tan esaman / okkkayone awa /
sonnohetap / Ainu enewa / Etumkor kusu / Ashtoma / Esaman / Eraike awan / Arenkaine

【現代表記・日本語訳】

- 0301 iki a korka sermaka yupke p e=ne kusu
そうしたのですが、あなたは憑神の力が強いので、
- 0302 ne toho ta e=oman wa eci=ukoyki awan.
その日に行って、あなたたちは戦ったのです。
- 0303 kamuy or_ ta hene nitne kamuy or_ ta hene
カムイの世界でも、魔物の世界でも
- 0304 epetturasi p isam pe tan esaman okkayo ne awa
敵う者がいないのが、このカワウソの男だったのですが、
- 0305 sonno he tap aynu e=ne wa e=tumkor kusu astoma esaman e=rayke awan.
本当にあなたは人間でも力が強いので、恐ろしいカワウソを殺してしまったのです。

p.4

【翻刻】

Eikare ari / eikoramnukarpe ne / kusu / kamui / ukohawashi / yupke / Esaman / teine / boknashir

²⁸ arkateomare kusu 「ひたすらに恋い」、ar 「全く」「全き」 kat-etok-omare 「考を起こす」「そういう気になる」(【ユーカラ集 6】 p.34) ; arkatetokomare = oshikkote (【久保寺辞典稿】 p.23)

²⁹ tusmak 【他動】 ...の先を越す、...と競争する。 etoko tusmak [連他動] ...の先を越す、...より先回りする、...よりも先に行く (【沙流辞典】 p.742)。

ここでのように siketoko 「目の前を」となる用例は他には見当たらない。

/ Akoahunke / kusune ari / Irenka sanke / kamuika / okai koroka / Aokai / Akopan ruwene / kamui
/ hene / Ainu hene / tapan shukup / kuru

【現代表記・日本語訳】

- 0401 a=renkayne e=ikare
私の意向であなたに〔カワウソを〕挑ませたのだろう
- 0402 ari e=i=koramnukar pe ne kusu kamuy ukohawas h_i yupke
とあなたに試されるものだから、カムイたちが話し合う内容が厳しく、
- 0403 'esaman teyne poknasir a=koahunke kusu ne'
『カワウソを湿った地底の国へと追放しよう』
- 0404 ari irenka sanke kamuy ka okay korka aokay a=kopan ruwe ne.
と沙汰を出すカムイもいるのですが、私がそれを拒否しているのです。
- 0405 kamuy hene aynu hene tapan sukupkur
カムイでも、アイヌでも、このような若者の

p.5

【翻刻】

keutum / Anakne / ukorachi / Anruwene / moisam / ummat / mashkino / shiretokkoro / kusu /
Auitek / kuru / tanepakno / pirika / keutum / kor a yakka / eatterketa / uhaitaburi / ki nei kashiketa
/ awenkoiki / kar araike / pakno / moisam / ummat

【現代表記・日本語訳】

- 0501 kewtum anakne ukoraci an ruwe ne.
気持ちというのは、似ているのです。
- 0502 Moysamunmat maskino siretokkor kusu
モイサムの女がたいへん容貌が優れているので
- 0503 a=uytek kur tane pakno pirka kewtum kor a yakka
私が使いとする者〔カワウソ〕が今まで良い心を持っていたのですが、
- 0504 uhayta puri ki ne h_i kasike ta a=wenkoykikar a=rayke pakno
愚かなふるまいをする上に、ひどくやっつけられ殺されるまでに、
- 0505 Moysamunmat
モイサムの女が

p.6

【翻刻】

suye aep / shinenotpoka / somoe / ponnoka / Iraraka / somokino / Aannokar / tane / yashtoma /
Anankap / sakte wa / Ambe / kashike un / neino an / Awenpanakte i / Aerampoken / kusu / Atusare
ruwene / Esaman okkayo / shino sonno / yaikokatpak / ruwene / tantewano /

【現代表記・日本語訳】

- 0601 suye aep sine not poka somo e ponno ka irara³⁰ ka somo ki no a=annokar.
煮炊きした食べ物を一口すら食わず、少しもたわむれもせずに、打ち負かされた。
- 0602 tane yastoma a=nankapsakte³¹ wa an pe
[そのカワウソが] 今は恥じ入って、面目をつぶされているのに、
- 0603 kasike un neno an a=wenpanakte h_i a=erampoken kusu
その上に、このようにひどく罰せられることを私は気の毒に思うので、
- 0604 a=tusare ruwe ne.
私は[そのカワウソの] 体を生き返らせたのです。
- 0605 esaman okkayo sino sonno yaykokatpak ruwe ne.
カワウソの男は、本当にたいそう自分のやったことを後悔しているのです。
- 0606 ‘tan tewano
『これからは、

p.7

【翻刻】

neino an / uhaitaburi / somo aki kusune / Ainu ari / yainu an / kusu / Irara an awa / kamui / bakburi
/ Akorbe / nepne kusu / Otasam unkuru / kirorashnu / humi tumkor / humi / tuimashitta /
Amonpokashte / ruwene / wen yayikush / toiyayikush / Akiruwene / Ari itakkor /

【現代表記・日本語訳】

- 0701 neno an uhayta puri somo a=ki kusu ne.
このような馬鹿な真似はしないようにします。
- 0702 aynu ari yaynu=an kusu irara=an awa
人間だと思ってからかったところ、
- 0703 kamuy pak puri a=kor pe ne p ne kusu
カムイが罰する行いを私はしてしまったものだから

³⁰ cf. ouse pon chiramokka / pon irara aki kusu / ikian awa 「ただほんのいたずら／小さなたわむれをしに／やったところが」【ユーカラ集3】p.479。

³¹ cf. chinankapsakka / iyekarkar 「ひどい恥を／われにかかした」【ユーカラ集3】p.316。

- 0704 Otasamunkur³² kirorasnu humi tumkor humi tuymasitta a=monpokaste³³ ruwe ne.
 オタサムの人がある様子、強い様子に、私は遠く敵わないのです。
- 0705 wen yayikus toy yayikus a=ki ruwe ne'
 私はひどく恥じ入り、大いに恥じ入っているのです』
- 0706 ari itak kor
 と言いながら、

p.8

【翻刻】

chish turano / kamui / utar orun / hemem / Eorun / hemem / boronno / yayabapu / tambe kusu /
 Eani neyakka / Esaman / okkayo / honnere wa / kore yan / Eepakita / pon yayattasane /
 rebunkamui / Ekashi / otasut / kotan / tomari / kambur / Aoyanke

【現代表記・日本語訳】

- 0801 cis turano kamuy utar or un hemem e=or un hemem poronno yayapapu.
 泣きながらカムイたちへもあなたに対しても、幾たびも詫びています。
- 0802 tanpe kusu eani ne yakka esaman okkayo honnere wa kore yan.
 なので、あなたもカワウソの男を許してあげてください。
- 0803 eepakita pon yayattasa ne
 その上で、ささやかな返礼として、
- 0804 repunkamuy ekasi³⁴ Otasut kotan tomari kampar
 沖のカムイのおじいさん（クジラ）をオタスツ村の港の入り口へと

p.9

【翻刻】

kusunena / Eutari utar / turano / kamui / turano / uwenupetne / yan ari / kamui / Itak bokor / yainu

³² 物語の以前の箇所では主人公は Otasutunkur であることになっており、またこの後の物語の結末でもオタスツの地名が出てくるので、どうもここはオタサムと書き間違えたようだ。

³³ cf. tuyma-shitta / eki shimoye / amonpokashte (1) (はるかに／お身のやった武者ぶりには／われらとても敵わない)

「(1) a-「われわれ」 mon「手」 pok「下」 ashte「立たせる」は「劣る、かなわない」意。-te という使役語尾がついてあるから、語順に再帰代名詞 yay-が a-の次にあって然るべきであろうか。あるいは-te が余計か」【ユーカラ集 1】pp.214-215。

³⁴ repunekasi「鯨の神、鯨、鯨をのむという怪魚」【久保寺辞典稿】p.266 ; Rep-un-ekashi「海中ノ怪物常ニ舟ヲ呑ムト言ヒ伝フ n A fabulous sea monster said to be in the habit of swallowing up ships」【バチラー辞典】p.420。ここでは、後ろの、村人たちが大喜びで盛装して肉を切り分けながら踊るという話の展開からも、クジラのことを指していると考えてよさそう。

anko / mosh an / wentarap / An humi ne / Awan / matkosanu an / tane / toiko / shittokap / kane
shiran / nepsui / Iyokunure neya / Aeramishkare / nowa soine an /

【現代表記・日本語訳】

- 0901 a=oyanke kusu ne na.
私が上げましょう。
- 0902 e=utari utar turano kamuy turano uenupetne yan”
あなたの同胞たちとカムイたちと、皆で喜んでくださいな」
- 0903 ari kamuy itak pokor yaynu=an ko mos=an. wentarap=an humi ne awan.
とカムイが話すように私は思うと、目が覚める。夢を見ていたのであった。
- 0904 matkosanu=an. tane toyko sittokap kane siran.
私はさっと立ち上がる。今や真昼間になっている。
- 0905 nep suy iyokunure ne ya a=eramiskare no wa soyne=an.
なんとまあ驚くことか分からない気持ちで、私は外に出る。

p.10

【翻刻】

Autari / utara / tane pakno / oripak kusu / somo ahup no / Aba soike / pakno / Arki rankei /
Aeramanbe / nekusu / shino / nitan kuru / suitek / tunashno / moisamun / Ayubihi / turesh / turano
/ Arkikunine / orowano / Autari / utara / nishpa

【現代表記・日本語訳】

- 1001 a=utari utar tane pakno oripak kusu somo ahup no
私の同胞たちは、今まで遠慮しているので、入っては来ずに、
- 1002 apa soyke pakno arki ranke h_i a=eraman pe ne kusu
戸口の外まで次々と来ていることが私は分かるので、
- 1003 sino nitan kur a=uytek
とても足の速い者を私は使いに出して、
- 1004 tunasno Moysam un a=yupihi tures turano arki kuni ne³⁵
すぐにモイサムに住む私の兄が、妹を連れて来るように（伝え）、
- 1005 orowano a=utari utar nispa

³⁵ kuni ne の後には、その前に述べられた事柄を目的として行われる動作を表現する動詞が来ることが多いが、ここではこれ以上何も述べられておらず、続きを入れるのを忘れたのであろうか。あるいは、orowano で何か付け足そうとして、そのまま先にってしまった可能性があるだろう。

それから、私の同胞たちの中で裕福な男と

p.11

【翻刻】

numkeno / katkemat / numkeno / Asakesuipare / orowano / utomtaterke / iyutap / iyuta / wakatap
/ wakata / rabokita / Ayemanu / moisam / unkuru / Ayubihi / kamui / shirine / Anwa / tureshi /
turawa / Arki / Eashka / uwekap an /

【現代表記・日本語訳】

- 1101 numkeno³⁶ katkemat numkeno a=sakesuypare³⁷
女の主だった者たちに私は酒を醸させ、
- 1102 orowano utomtaterke³⁸ iyuta p iyuta
それから右往左往して搗きものをする者は搗きものをし、
- 1103 wakata³⁹ p wakata
水汲みをする者は水汲みをし、
- 1104 rapoki ta a=ye manu Moysamunkur a=yupihi kamuy siri ne an wa
その間に、件のモイサムの子、私の兄が、カムイのような様子で、
- 1104 turesi tura wa arki. easka uekap=an
妹を連れてやって来る。我々は互いに丁重に挨拶をし、

p.12

【翻刻】

Ikeuhumsu / tapne tapne / kane / kamui / orushbe / eneene / okai obitano / Anure / obittano /
ukoikyokunure / orowano / sake karan / rabokita / kunnewano / Autari / utar / uhautaroise / Akor
kotan / yaketa / rebun / Ekashi / shinoborop / yanwa /

【現代表記・日本語訳】

- 1201 ikewhumsu⁴⁰ tapne tapne kane kamuy oruspe ene ene okay
事件がかくかくしかじかで起り、カムイの話がこれこのようだというのを、

³⁶ numkeno 「選んで」【久保寺辞典稿】p.208。

³⁷ sakesuye / sakesuypa 「酒を醸す」【久保寺辞典稿】p.276。

³⁸ utomtaterke 「右往左往す」【ユーカラ集 6】p.293。

³⁹ wakata 「【ホロベツ】水汲む < wakka-ta」【地名小辞典】p.143。

⁴⁰ 【ユーカラ集】をみると、この単語は i=kewhumsu で「私を祝福する」という意味で用いられるようだが（【ユーカラ集 1】、p.308 を含め用例多数）、ここでは【パチラー辞典】にある「出来事 n. An accident」（p.182）の方が文脈に適合しているようで、後者の意味で解釈することにする。

- 1202 opittano a=nure opittano ukoiyokunure
 全て私は話して聞かせ、皆がそろって驚き、
- 1203 orowano sakekar=an rapoki ta kunnewano a=utari utar uhawtaroyse
 それから私が酒を醸すあいだに、朝に私の同胞たちが騒がしくして、
- 1204 “a=kor kotan yake ta repun ekasi sino poro p yan wa
 「私たちの村の岸へとクジラの、とても大きいものが上がって

p.13

【翻刻】

Anruwene / ari hawe / okai / moirep / hene / Ayehawne ne / kuni / Aramu awa / hawash chiki /
 shino iyokunure an / Ayubi neyakka / Iyokunure / tunanewa / Iwankosonte / Akokutkor /
 Iwankosonte / Aobannere / kamui / Inauru / Asapa / uiruke / Emush / Amut kane /

【現代表記・日本語訳】

- 1301 an ruwe ne”
 いるぞ」
- 1302 ari haweokay. moyre p hene a=ye hawe ne kuni a=ramu awa⁴¹
 と言う。まだ時間がかかる話なのだろうと私は思っていたが、
- 1303 hawas ciki sino iyokunure=an. a=yupi ne yakka iyokunure
 [人々がそのように] 言うから私は本当に驚く。私の兄も驚いて
- 1304 tun a=ne wa iwan kosonte a=kokutkor iwan kosonte a=opannere⁴²
 私たちは二人で六重の小袖に帯を締め、六重の小袖をうち羽織り、
- 1305 kamuy inawru a=sapauyruke emus a=mut kane
 立派な男の冠物を頭にかぶり、太刀を佩いて

p.14

【翻刻】

bishta / sapanwa / Inkar anko / moshirbak / rebun / Ekashi / yanwa / okai chiki / tuwan / onkami
 / rewan / onkami / Akikane / orowano / ineapkusu / Autaripo / nubetnewa / ikichi / nankora /

⁴¹ cf. Moirep hene / aye hawe- / ne kuni / aramu awa 「まだまだ遅いことをでも 言うこと であろうかと 我思ったら」【ユーカラ集4】p.102。ここは、海の守り神（atuy kor kamuy）が返礼にシャチを主人公たちに贈る旨を述べたことが実現しているわけだが、もう少し時間がかかるだろうと思ったのに意外と早かったという驚きを表現しているのであろう。

⁴² cf. iwan kosonte / kokutkor / iwan kosonte / opannere 「六重の小袖に 帯を締め 六重の小袖を うち羽織り」【ユーカラ集1】p.341。

Isoetapkar / Isoerimse / mina hawe / Itak hawe /

【現代表記・日本語訳】

- 1401 pis ta sap=an wa inkar=an ko
 浜へと下りて見てみると、
- 1402 mosir pak repun ekasi yan wa okay ciki
 島ほどもある大きさのクジラが上がっているの、
- 1403 tuwan onkami rewan onkami a=ki kane
 二十のオンカミ（拝礼）、三十のオンカミを私たちはして、
- 1404 orowano ineapkusu a=utaripo nupetne wa iki ci nankor y_a
 それから何とまあ私の同胞たちが喜んですることであろうか、
- 1405 isoetapkar isoerimse⁴³ mina hawe itak hawe pepunitara.
 獲物を得た踊りをし、獲物を得た舞踏をし、笑う声や話す声がにぎやかである。

p.15

【翻刻】

bepunitara / Ikoorsutke / Anwa / Autari / shiyukkane / orowano / Icha an / toomoisam wa /
neyakka / Inne / utar / Arkiwa / Iksui / Ichaan / Aine aokere wa / utar obittano / Akousaraye /
tane / sake pirika wa / Inunpa an / Ikuetok / Aoiki / Ateke ari /

【現代表記・日本語訳】

- 1501 ikoorsutke=an⁴⁴ wa a=utari siyuk kane orowano ica=an.
 私は励まして、私の同胞たちが良い着物を着て、そして肉を切り分ける。
- 1502 too Moysam wa ne yakka inne utar arki wa
 はるかモイサムからも大勢の人が来て、
- 1503 i=kasuy ica=an ayne a=okere wa utar opittano a=kousaraye.
 私たちを手伝って肉を切り分けたあげくに、終わって、私は皆とこれを分け合う。
- 1504 tane sake pirka wa inunpa=an iku etok a=oyki
 今や酒が美味しくなって、私は酒搾りをして、酒宴の準備をし、

p.16

⁴³ cf. tun ne wa / isoetapkara / isoerimse / tu mina itak / re mina itak / utashpare 「二人で 狼の踊りをし 狼の舞踏をし 二つの笑い言葉を 三つの笑い言葉を 互に返しつつ」【ユーカラ集6】p.372。

⁴⁴ 冒頭の接尾辞 i-は、主人公である「私」を目的語とする4人称の接尾辞になる可能性と、不定人称の接尾辞になる可能性があるが、ここは文脈から主人公が村人たちを促しているため不定人称であろう。

【翻刻】

boronno / Inauke an wa / chise kor / kamui / nusakor / kamui / Ainau kere / otatek samta / Ashir / nusa / Akar wa / Atuikor / kamui / Akoyairaike / kusu / Inau ari / sake ari / Anomi / moshma sui / rebun / kamui / neyakka / kimun

【現代表記・日本語訳】

- 1601 a=teke ari poronno inawke=an wa
私は手づからたくさんイナウを削り、
- 1602 cisekorkamuy nusakorkamuy a=inawkere⁴⁵
家を守護するカムイや、幣場を守護するカムイに、イナウを削らせて
- 1602 ota teksam ta asir nusa a=kar wa
浜辺に新しい幣棚を私は作って、
- 1603 atuykorkamuy a=koyairayke kusu inaw ari sake ari a=nomi.
海を守護するカムイに感謝をささげるため、イナウと酒で私は祈りを捧げる。
- 1604 mosma suy repunkamuy ne yakka
他にもまた、沖のカムイ（シャチ）にも、

p.17

【翻刻】

kamui / neyakka / obittano / Inau ari / sake ari / shito ari / Anomi wa / Aeramu / shinne / tap orowano / kimun / kamui / rebun / kamui / kotturesh / utar / ketushi / kamui / utar / yepne kusu / neino / Ayekor / moisam /

【現代表記・日本語訳】

- 1701 kimunkamuy ne yakka
山のカムイ（クマ）にも、
- 1702 opittano inaw ari sake ari sito ari a=nomi wa a=eramusinne.
皆イナウで酒でシト（団子）で私は祈りを捧げ、それで安心する。
- 1703 tap orowano kimunkamuy repunkamuy kor_ tures utar ketusi
さてそれから山のカムイ（クマ）と沖のカムイ（シャチ）の妹たちの背負い袋は
- 1704 kamuy utar ye p ne kusu⁴⁶ neno a=ye kor Moysam⁴⁷

⁴⁵ ここは、主人公が自らイナウを作るのだけでなく、指示して人々にも作らせたということであろうか。指示してやらせたということであろうか。

⁴⁶ 上の p.68 で、二人のカムイが、自身の背負い袋（ケトゥシ）の中身をモイサムンマツに授けようと思っている、と言っていたことを受けての主人公の行為である。

⁴⁷ 次のページ冒頭の kore の目的語が Moysam になっているが、これは何かページの継ぎ目に言

カムイたちが言うことなので、そのように私は言ってモイサム（の女性に？）

p.18

【翻刻】

Akore chiki / Ikkeunoshki / komkosampa / uinawa / rikunruke / raunruke / koonkami / oshkeop(?)
/ sapte kusu / usa kani / kosonte / usa / chibanup / kamui / shitoki / kamui / tamasai / chiekotpa /
sonno / tan ainu / moshir kata / Isam / machikor /

【現代表記・日本語訳】

- 1801 a=kore ciki ikkew noski komkosanpa uyna wa
へと私は与えると、[モイサムンマツ] は背骨の半ばをかがめて受け取って、
- 1802 rikunruke raunruke koonkami
高く捧げ、低く捧げ、それに向かってオンカミ（拝礼）をし、
- 1803 oske o p sapte kusu
中に入っている物を出すと、
- 1804 usa kani kosonte usa cipanup kamuy sitoki kamuy tamasay chiekotpa⁴⁸
金の小袖やら、鉢巻きやら、素晴らしいシトキや素晴らしいタマサイがついた
- 1805 sonno tan aynu mosir ka ta isam macikor
本当にこの人間の国の上にならないような女の宝物

p.19

【翻刻】

hemem / kosonte / hene / usa / sarampe / boronno / saptewa / shino / nupetne / Ayubi / neyakka /
nupetne / tuwan / onkami / rewan / onkami / ukakushte wa / Ikoonkami / Ikoyairaike / Aakihi /
kamui / koinkar / kushkeraipo /

【現代表記・日本語訳】

- 1901 hemem kosonte hene usa saranpe poronno sapte wa sino nupetne.
やら小袖やら絹の布やら、たくさん取り出して、たいへん喜ぶ。
- 1902 a=yupi ne yakka nupetne

葉が抜け落ちているであろうか。

⁴⁸ cf. kaparpe kasa / kasa so kashi / upushne etor / upushne tumshi / chiekotpap (3) / ran tupepi /
yaikoyubu 「薄手の冠 冠のおもてに ざくざくさがる木鈴 ざくざくさがる木房 がついているもの
の 垂らす紐の緒を 自分に締め (3) kot 「結びつく」 kote 「結びつける」, e-kote 「そこへ・結
びつける」の複数形 ekotpa 「たくさん結びつける」 chi-で中相になって「たくさん結びついて
いる」と自動詞化する -p 「もの」【ユーカラ集3】p.59。

私の兄も喜び

- 1903 tu wan onkami re wan onkami ukakuste wa i=koonkami i=koyairayke
二十のオンカミ (拝礼)、三十のオンカミを繰り返して、私にオンカミをし、感謝をし、
- 1904 “a=akihi kamuy koinkar kuskeraypo
「私の弟をカムイが見守っているおかげで、

p.20

【翻刻】

Atureshi / moshittuikata / isam / katkemat / neshiri an / Ariitak / kane / Iramye / hawe kari / kane
/ orowano / kamui / utar / Aupakno / kanto / oropakno / kamui / obittano / Atuki / ebishte / Ashinrit
/ utari / obittano /

【現代表記・日本語訳】

- 2001 a=turesi mosir_ tuyka ta isam katkemat ne siri an”
私の妹は国の上に二つとない尊い女性となるようだ」
- 2002 ari itak kane i=ramye hawe kari kane⁴⁹
と言って、私を何度も誉めそやし、
- 2003 orowano kamuy utar anpakno⁵⁰ kanto oro pakno kamuy opittano a=tukiepiste
それからカムイたち皆に、天の国までカムイたち皆に私たちは杯の数を揃えて
- 2004 a=sinritutari opittano
私の先祖たちにも皆、

p.21

【翻刻】

Akoshinurappa / okere / keshto / iku an / Ibe an / rebun / kamui / shikehe / kimun / kamui / shikehe

⁴⁹ iramye hawe kari kane 「私をほめたたえた」【アイヌ神謡集】 p.124 ; iramye hawe kari 「～が口々に誉めたたえる」【神謡集辞典】 p.307 ; iramye はくi-ramye (人・をほめる) ほめる。kari は「を回す」。全体で「ほめる声が回る」→「(神々が) 次々にほめそやす」【神謡集を読みとく】 p.349。

【神謡集辞典】も【神謡集を読みとく】も冒頭の i-を不定人称としてとっているようだが、知里幸恵自身は自叙する主人公を目的語とする 4 人称の人称接辞(「私を」)ととっており、ここでの用例でも知里幸恵の解釈に従ってよさそうだ。また、【アイヌ神謡集】においては、カムイが複数いて口々に誉める場面であるが、この物語では、モイサムの村人たちが具体的に出てきているわけではなく、基本的にモイサムの兄一人が言葉を発しているようなので、「次々に褒める」のではないかと解釈した。

⁵⁰ anpakno : あるだけ、みんな、全部【萱野辞典】 p.42 ; みんな、全部 opitta, anpakno【方言辞典】宗谷、p.268。

ne / shisakbe hene / keshto / Autari / utar / turano / nupetneno / Aumaraptokor / nepsui / keraan
wa / humash / nankora / aine tane /

【現代表記・日本語訳】

- 2101 a=kosinurappa okere. kesto iku=an ipe=an
私は先祖供養をし終わる。毎日、食事をし、酒を飲み、
- 2102 repunkamuy sikehe kimunkamuy sikehe ne sisakpe hene⁵¹
沖のカムイ（シャチ）の荷物と山のカムイ（クマ）の背負い荷の美味しいものなど
- 2103 kesto a=utari utar turano nupetneno a=umaraptokor⁵²
毎日私の同胞たちとともに喜びながら互いに饗応し、
- 2104 nep suy keraan wa humas nankor y_a ayne
なんとまた美味しい味がすることかと思ったあげくに、

p.22

【翻刻】

kamui / utar / hene / Ainu / utar / hene / nupetne / ramushinne i / Aeraman / Ayubi / shino /
katkemat / Akore wa / eashka / boro yayiraikeki / kor hoshpa / Autari / utar / neyakka / yayiraike /
onakami / kor iwak / okaketa /

【現代表記・日本語訳】

- 2201 tane kamuy utar hene aynu utar hene nupetne ramusinne h_i a=eraman.
今はカムイたちも人間たちも、喜び、安心したことが私は分かる。
- 2202 a=yupi sino katkemat a=kore wa easka poro yairayke ki kor hospa⁵³.
私の兄に本当の淑女をめとらせ、たいそう大きな感謝をしながら帰っていく。
- 2203 a=utari utar ne yakka yayirayke onkami kor iwak okake ta
私の同胞たちも感謝をし、オンカミ（拝礼）をしながら帰っていった後で、

p.23

【翻刻】

⁵¹ 上述の驚いたために置いて出ていってしまった背負い荷のことを言っているのであろう。主人公のおじいさんの言葉を参考にするならば、そこには山の獲物と海の獲物の良いものが入っていたらしい。

⁵² keshto pirika / ibe hene / iku hene / aumarapto koro 「毎日よき 食事でも 酒でも われらは互に御馳走をもつ」【ユーカラ集1】p.400。

⁵³ 金田一京助は【ユーカラ集1】において、原ノートの hoshpa を hoshippa と修正しているが（p.399）、どうも他の箇所でも金成マツ氏は hoshpa という形を用いているようであり（例えば【ユーカラシリーズ36】、ここではこの語形をそのまま採用することにした。

moisam / ummat / Ahekote / moshittuikata / Isam / uwepirika / Akikor / Ekimne anko / Tupsumau / Akor / repsumau / Akor / repta / Akoikip / Aeyana / rutu / Akor katkemat / toitako / tubu ebuni / rebu ebuni / shisakbe / patek / kirbu /

【現代表記・日本語訳】

- 2301 Moysamunmat a=hekote mosir_ tuyka ta isam uepirka a=ki kor
モイサムの子と私は連れ添い、国の上にならないような幸せな暮らしをして、
- 2302 ekimne=an ko tup sumaw a=kor rep sumaw a=kor
山に猟に行けば、二つの獲物を取り、三つの獲物を取り、
- 2303 rep ta a=koyki p a=eyanarutu.
海の獲物も陸に持ち帰り、
- 2404 a=kor katkemat toyta ko tu pu epuni re pu epuni
妻は畑を耕すと、二つの倉を立て、三つの倉を立て、
- 2405 sisakpe patek kirpu patek
美味しいものばかり、脂身の部分ばかり

p.24

【翻刻】

patek / Shitopatek / meshipatek / Aekane / yakka / Autari utar / repta / koikip / hene / kimta / koikip / hene / hoshkino / tomotbe / iyotta / oropirikai / kotan / kor nishpa / kotankor / katkemat / Ebi ari / hawe okai /

【現代表記・日本語訳】

- 2401 sito patek mesi patek a=e kane yakka⁵⁴
団子ばかり（米の？）飯ばかりを私は食べながら
- 2402 a=utari utar rep ta koyki p hene kim ta koyki p hene
私の同胞たちは、海の獲物でも、山の獲物でも、
- 2403 hoskino tomot pe iyotta oro pirka h_i
最初に出会った（獲物にした）ものの最も美味しい部分を
- 2404 “kotan kor nispa kotan kor katkemat epi”
「村長の旦那と村長夫人の食べるもの（です）」

⁵⁴ この kane yakka という接続助詞の連なりは、あまり見ないものであるが、【ユーカラ集2】に itukarikepo / koshikerana- / atte kane yakka / hese-attom / sambe-attom / iekote kane 「われのすぐ手前へ目をひくく かけながら 息の緒なかばに 心臓のなかばに われをむすびつける」という例がある（同、p.71）。

2405 ari haweokay kor
と言いながら

p.25

【翻刻】

koro / burai kari / Abakari / usa shisakbe / usa shito / shioraipa / Itasapakno / Autari / utar / Ayaiko
/ omap / Akoikip / Akorpare / kane / neino sui / moisam un / Ayubi / umurek / kamui / Asuru /
Anukor / okai an / tane tupo /

【現代表記・日本語訳】

2501 puray kari apa kari usa sisakpe usa sito sioraypa⁵⁵

窓から戸口からうまいものや団子などが届く。

2502 itasa pakno a=utari utar a=yaykoomap a=koyki p a=korpare kane

お返しに、同胞たちを私はかわいがり、私が獲ったものを分け与えて、

2503 neno suy Moysam un a=yupi umurek kamuy asuru a=nu kor okay=an.

同じようにまた、モイサムに住む兄夫婦の素晴らしい評判を私は聞きながら暮らす。

2504 tane tu po

今や二人の子ども

p.26

【翻刻】

repo / Aukosapte / hoshkino / tukbe / okkai / ne ike / Iramkopashte / menoko / neike / Akor /
katkemat / ramkopashte / nep akonrusui / nep aerusui / somokino / shukup / Anh(?)ine / tane /
kemapase an / Apoutari / repta / koikip / eyanarutu /

【現代表記・日本語訳】

2601 re po a=ukosapte.

三人の子どもを（たくさん子どもたちを）私たちはもうける。

2602 hoskino tuk pe okay ne h_ike i=ramkopaste

先に育つ者は、男の子は私のことを手伝い

2603 menoko ne h_ike a=kor katkemat ramkopaste

女の子は私の妻を手伝い

2604 nep a=kor_ rusuy nep a=e rusuy somo ki no

⁵⁵ Shioraye 「到着スル v.i. To arrive at a place」【バチラー辞典】p.461

何を私は欲しいがることも、食べたいと思うこともなく

2605 *sukup=an hine tane kemapase=an.*

年を重ねて、今や私は年老いる。

2606 *a=po utari rep ta koyki p eyanarutu*⁵⁶

私の息子たちは沖でとった獲物を陸揚げし、

p.27

【翻刻】

kimta / koikip / esanarutu / chinpatek / kambetu / patek / Aeiiyobokire / Akor / katkemat / neyakka / matnepo / utara / obikin / Icha kane / Apo utari / mat kor / hokukor / Anitpo / utari / neyakka / shirieshik(?) / shibish / kani un /

【現代表記・日本語訳】

2701 *kim ta koyki p esanarutu*

山でとれた獲物を下ろしてきて、

2702 *cin patek kampetu patek a=eiypokire*⁵⁷

私は皮を張るばかり、肉を割いて干すばかり手伝い（？）、

2702 *a=kor katkemat ne yakka matnepo utar opikin ica kane*

妻も娘たちを手伝って、穀物の穂摘みをして、

2703 *a=poutari mat kor hoku kor a=nitpo utari neyakka siresik*

子どもたちも妻をとり、夫をとり、孫たちも大勢いて

2704 *sipiskani un*⁵⁸

自分の周りへと

p.28

【翻刻】

Ihenkotpa / An iyomap an / Aine aine / tapne tapne / pon ram / wano / mat kor / Anrapoki / pakno

⁵⁶ Eyanarutu 「e-「それで」 yana 「陸の方」 rutu 「寄せる」、どんどん獲ること」【ユーカラ集1】 p.432。

⁵⁷ この単語は他に用例が見つからない。

Opokin 「補助スル、助ケル. v.t.. To do for another. To assist. Syn : Opikin. Opukin」 【バチラー辞典】 p.358

と関係するか。下の行では opikin が用いられている。【久保寺辞典稿】にも opokin という語形が載っているが、用例に *eneopoki wa kar* 「手伝ってこしらへた」と載っている (p.189)。

⁵⁸ cf. Eturachichi / shipishkan un / horasi hosari 「エトゥラチチ おのが周りを 振り返り振り返り」【ユーカラ集8】 p.291。

shiriki / shiri / hawash / shiri / obitta no / Apo utari / Aeupashkuma / Anure / pirika / keutum /
Akorko / Anakne / nep hokampap / nep ishtomap /

【現代表記・日本語訳】

- 2801 ihenkotpa=an iomap=an ayne ayne
私はうなづいたり可愛がりしたあげくのあげくに、
- 2802 tapne tapne ponram wano matkor=an rapoki pakno
これのように小さい頃から妻をとるあいだまでに
- 2803 sirki siri hawas siri opittano a=poutari a=eupaskuma a=nure
見たことや聞いたことをみな私は子どもたちに言い伝えて聞かせ、
- 2804 pirka kewtum a=kor ko anakne nep hokampa p nep istoma p
良い精神をもっていれば、何の難しいこと、何の恐ろしいことに

p.29

【翻刻】

Akoekari / yakka / Anomi / kamui / Ikohosarpap / nena / Ika ika / wenburi / echikor na / neita /
pakno / Akor / Ekashi / utar / nomi / kamui / Echinomi / yakne / Aokai / neepkorkane / shukuptui
kata / kamui / koinkar wa /

【現代表記・日本語訳】

- 2901 a=koekari yakka a=nomi kamuy i=kohosarpa p ne na.
遭遇しても、祈りを捧げるカムイが振り向いてくれるものなのだよ。
- 2902 ika ika wen puri eci=kor na.
決して決して悪い振るまいをお前たちはもつのではないよ。
- 2903 neyta pakno a=kor ekasi utar nomi⁵⁹ kamuy eci=nomi yakne
いつまでも私のおじいさんたちに祈りを捧げ、カムイにお前たちが祈りを捧げれば、
- 2904 aokay nepkor kane sukup tuyka ta kamuy koinkar wa
私と同じように、一生涯カムイが見守ってくれて、

p.30

【翻刻】

Ibe eashkai be / neruwe / tapan ari / Itakan kane / Ainuburi / kamui / buri nep ne / kusu / tane anak

⁵⁹ この nomi には人称接辞がつかず、次の nomi には人称接辞がついている。最初は ika ika の禁止の文脈で命令形で言っているつもりだったのが、その後は yakne につなげるために人称接辞をつけなければならないという意識がはたらいたのだろうか。

ne / Akor / katkemat / turano / kamui / onne pirika / onne / Akishiri / tap anna ari / otasut un /
shino / keutum / pirika / nishpa /

【現代表記・日本語訳】

3001 ipe easkay pe ne ruwe tapan”

食べ物にこのように困らないでいられるのだ」

3002 ari itak=an kane aynu puri kamuy puri ne p ne kusu

と私は言い、人間の風習やカムイの風習にのっとって、

3003 tane anakne a=kor katkemat turano kamuy onne pirka onne a=ki siri tapan na

今は私の妻とともに、カムイの老い方、良い老い方をこのようにしているのですよ、

3004 ari Otasut un sino kewtumpirka nispa

とオタスツのたいそう精神の良い長者が

p.31

【翻刻】

poutari / pashkuma / kor onne wa / Isam /

【現代表記・日本語訳】

3101 poutari paskuma kor onne wa isam.

子どもたちに言い伝えて、死んでしまう。

(ふじた まもる・慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部)

Aynu Oral Text in the Written Notebooks by KANNARI Matsu
Prose Tale (uepeker) "An Otter Disguising as Myself (esaman i=sinere)"
Written for KINDAICHI Kyosuke (Second Half)

FUJITA Mamoru

This article forms part of a series of effort by the author to make accessible the oral texts written down in Aynu language by Kannari Matsu, in the notebooks that were passed on to Kindaichi Kyosuke and Chiri Mashiho. Here we publish the prose tale “esaman i=sinere uepeker (an otter disguises as myself)” where the main protagonist (*Otasutunkur*) battles with the otter (*esaman*) that tries to steal his betrothed partner in the village of *Otasam*, followed by conversations with different deities (*kamuy*) about the battle, the fate of the otter, and of the protagonist himself. In the introductory section, we lay out the philological details of the text and the notebook, followed by an outline of the story in Japanese. After some remarks on the Aynu orthography employed here and strategies for Japanese translation, we present the main part of this article, which is a faithful page-by-page transcription of the original written Aynu text, followed by a modified text with contemporary Aynu orthography and its translation to Japanese. This article follows what was published last year, and presents the second half of this story.